

Ethernet Fader for Q-SYS Core

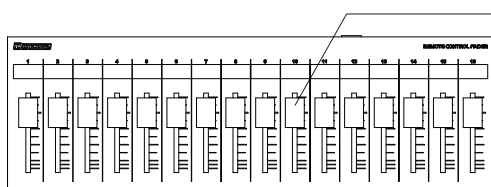
# LF08Q/LF16Q/LF24Q/LF24Q-EIA

## 取扱説明書

### LFシリーズの特徴

LF-QシリーズはQSC社の「Q-SYS Core」に対応した設備用コントローラーです。誤操作などを避けるため、ON/OFFスイッチや設定ボタンなどを搭載しておりませんので宴会場や会議室など、専任オペレーターがいない場所でも簡単に扱うことができます。

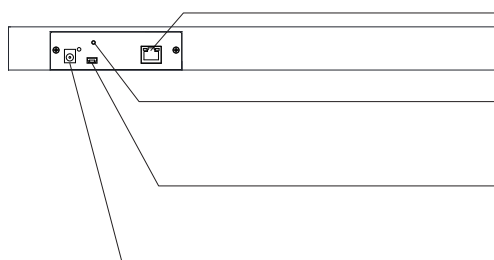
#### ■フロントパネル



##### フェーダー

LF08Qは8ch、LF16Qは16ch、LF24QとLF24Q-EIAは24ch分のボリュームをコントロールできます。Q-SYS CoreのコントロールしたいパラメーターのNamed Controlsを設定してください。LF16Qのch1で操作する値のNamed Controlsの名称を「digicom\_fader101」LF16Qのch2で操作する値のNamed Controlsの名称を「digicom\_fader102」以下同様に116までとなります。※LF24Qの場合は124までとなります。

#### ■リアパネル



##### RJ45端子

Q-SYS Coreのコントロールデータを出力します。

##### M3ネジ穴

DCプラグの抜け防止等に使用してください。

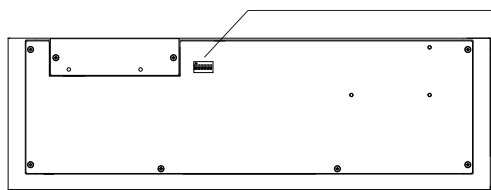
##### USB端子

ファームウェアアップデート用です。使用しないで下さい。

##### DC IN端子

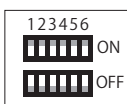
付属品のACアダプターを接続してください。

#### ■ボトムパネル



##### DIPスイッチ

- ・LF-QとQ-SYS Coreを1対1で接続する場合、すべてのDIPスイッチをOFFに設定してください。
- ・1台のQ-SYS Coreに対してLF-Qを複数台接続する場合、DIPスイッチの設定が必要となります。設定方法はP4をご参照ください。※複数台での接続は4台まで動作確認をしております。



### IPアドレスについて (必ずお読みください)

LF-QのIPアドレスは192.168.0.168に設定されており、DHCP非対応です。初期設定でIPアドレス192.168.0.100のQ-SYS Coreをコントロールすることができます。LF-QのIPアドレスを変更する場合や、コントロール先のQ-SYS CoreのIPアドレスを変更した場合は同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。

### サイズ

LF08Q	W225×D132×H36	1.2kg
LF16Q	W410×D132×H36	2.1kg
LF24Q	W610×D132×H36	3.5kg
LF24Q-EIA	W410×D132×H36	2.0kg

### 仕 様

出力端子	:RJ45
伝送規格	:TCP
イーサネット規格	:10/100BASE-T
IPアドレス初期値	:192.168.0.168
IPポート初期値	:1702
電源電圧	:9V / 0.3A (LF08Q) 9V / 0.3A (LF16Q) 9V / 0.4A (LF24Q) 9V / 0.4A (LF24Q-EIA)
付 属 品	:ACアダプター
塗 装	:半艶黒

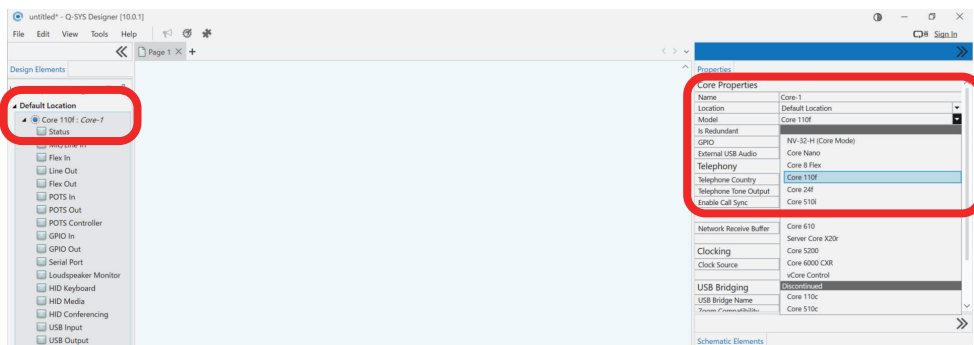
## Q-SYS Coreの設定方法

※本マニュアルはソフトウェアバージョン 10.0.1-2508.003での設定方法となります。  
動作確認ファームウェア:バージョン10.0.1-2508.003

■設定用PCのLANポートを、使用するQ-SYS CoreのLAN AまたはLAN Bに接続してください。

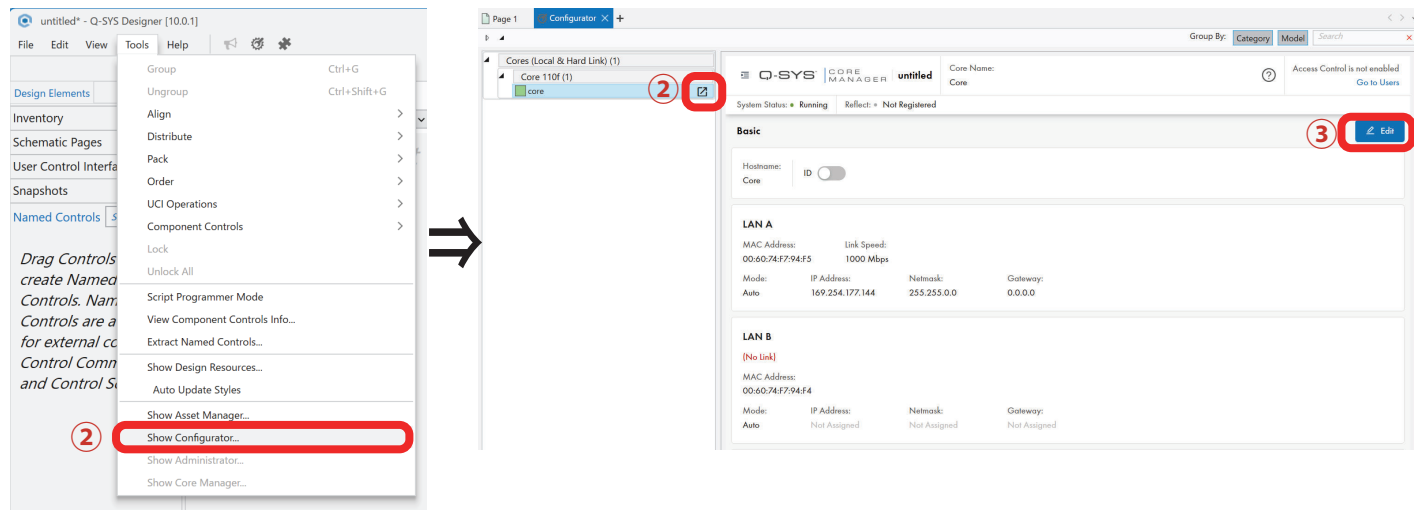
■接続するQ-SYS Coreの設定(制御機種の選択とIPアドレスの設定)

①Q-SYS Designer Softwareを開きます。「Default Location」からCoreを選択し、制御する「Model」の選択と、任意の名前を付けてください。Name欄に表示される初期設定を使用する場合、変更の必要はありません。



②メニューバーから「Tools」―「Show Configurator」を開きます。  
表示された「Cores (Local & Hard Link)」一覧からコントロールしたいQ-SYS Coreを選択します。

③基本設定の編集をするため、「Edit」ボタンを押してください。

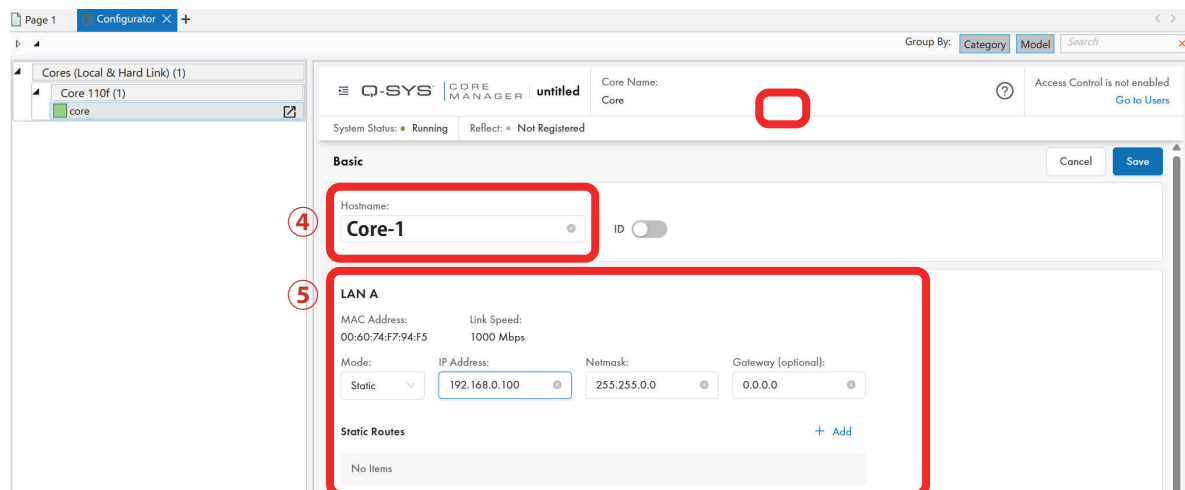


④「Hostname」欄に制御するコアの名前を入力します。①で確認した「Name」と同じ名前を入力してください。

⑤続いて、制御するCoreのIPアドレスを設定します。フェーダーを接続したいLAN Port欄で、下記の設定を入力してください。  
画像は、LAN Aにフェーダーを接続する場合の例です。

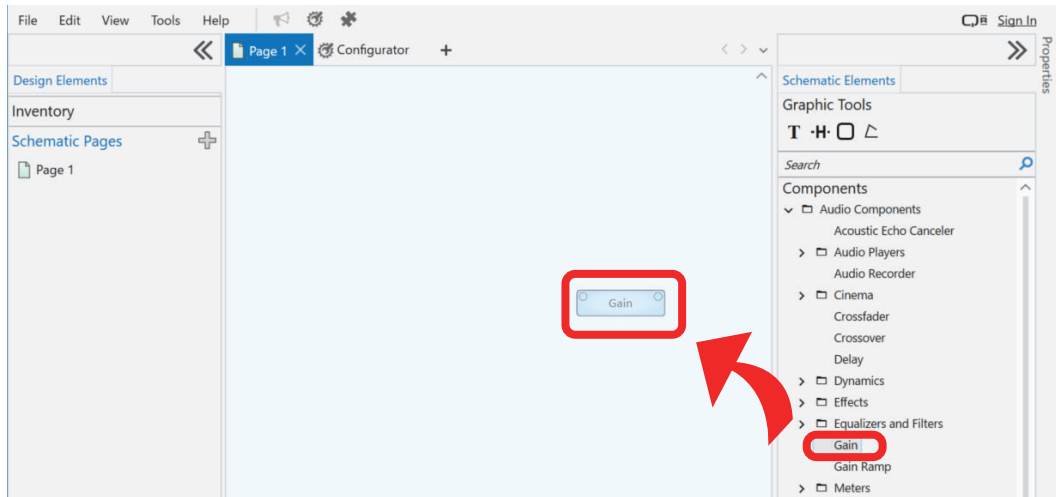
LAN AのMode : Staticに変更  
IP Address : 192.168.0.100  
Netmask : 255.255.255.0  
Gateway(optional) : 0.0.0.0

入力が完了したら、右上の「SAVE」ボタンを押して、設定を保存します。



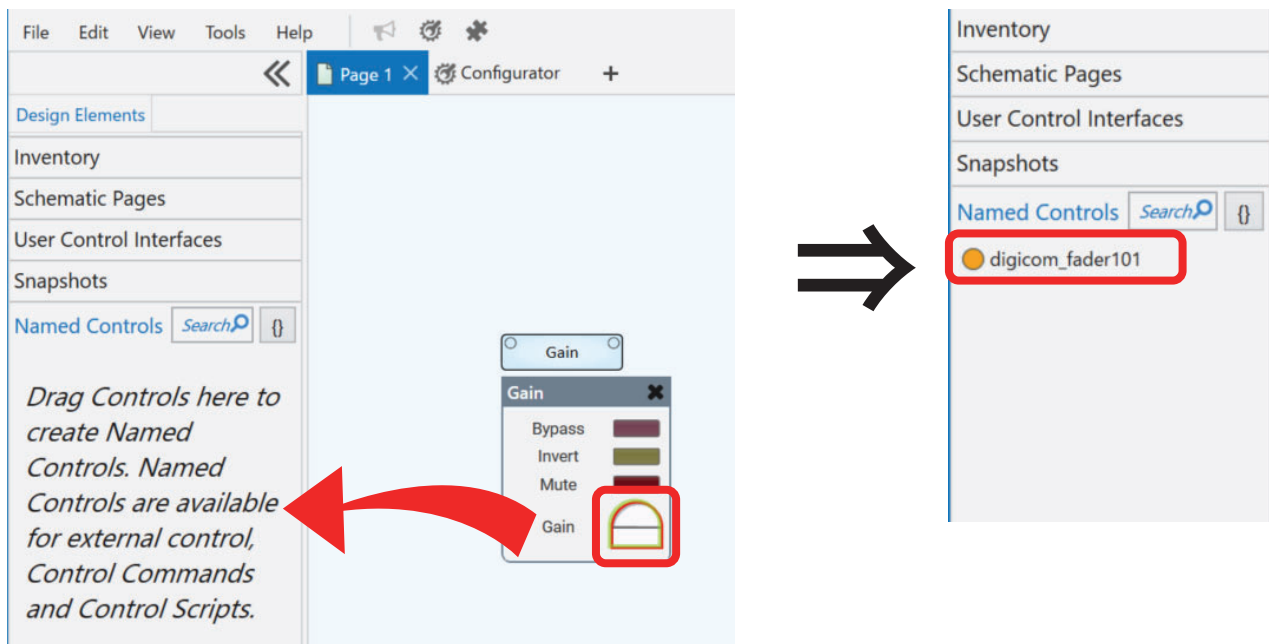
## ■フェーダーをアサインする

①「Schematic Elements」－「Components」－「Audio Components」－「Gain」を選択し、「Schematic」ウインドウの「Page1」へドラッグアンドドロップします。

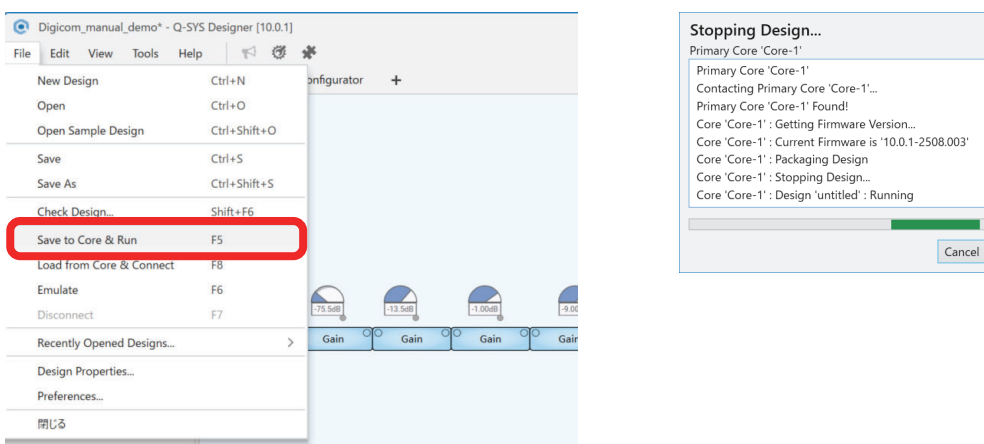


②追加した「Gain」をダブルクリックしてステータスを表示し、「」アイコンを「Named Controls」にドラッグアンドドロップします。

「Named Controls」一覧に追加されたら、「digicom\_faderxx」と入力してください。(xxは操作したいフェーダーのチャンネル番号)  
「digicom\_fader101」はLF-Qフェーダーの1chになり、「digicom\_fader102」はLF-Qフェーダーの2chになります。  
※「Named Controls」では同一の名前を使用できませんので、ご注意ください。



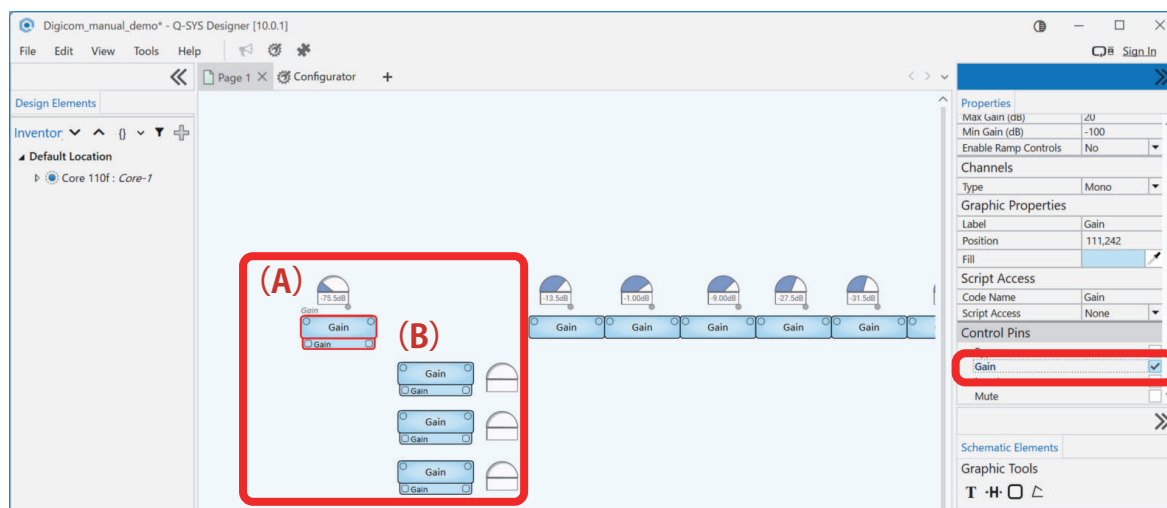
③同様に、コントロールしたいフェーダーの数だけ「Gain」を追加し、それぞれに名前を付けてください。  
すべてのアサインが完了したら、「File」－「Save to Core & Run」を選択して、作成したDesignerデータをQ-SYS Coreと同期します。  
同期が完了すると、アサインしたフェーダーでGainが動作します。



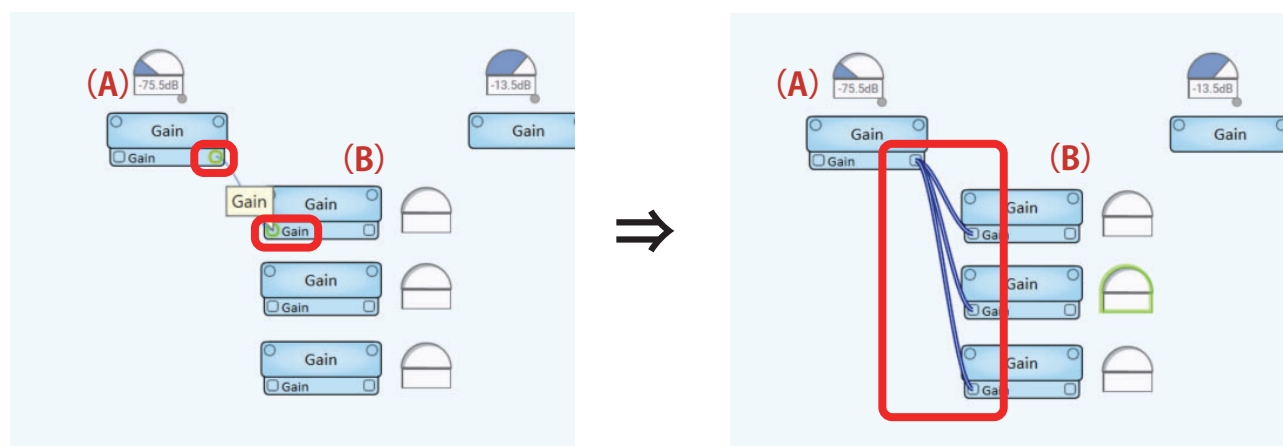
## ■1本のフェーダーで、複数のGainをまとめてコントロールする

1つの「Gain」(A) で、複数の「Gain」(B) を同時にコントロールすることができます。

①操作対象となる「Gain」を選択し、「Control Pins」内の「Gain」にチェックを入れて表示します。



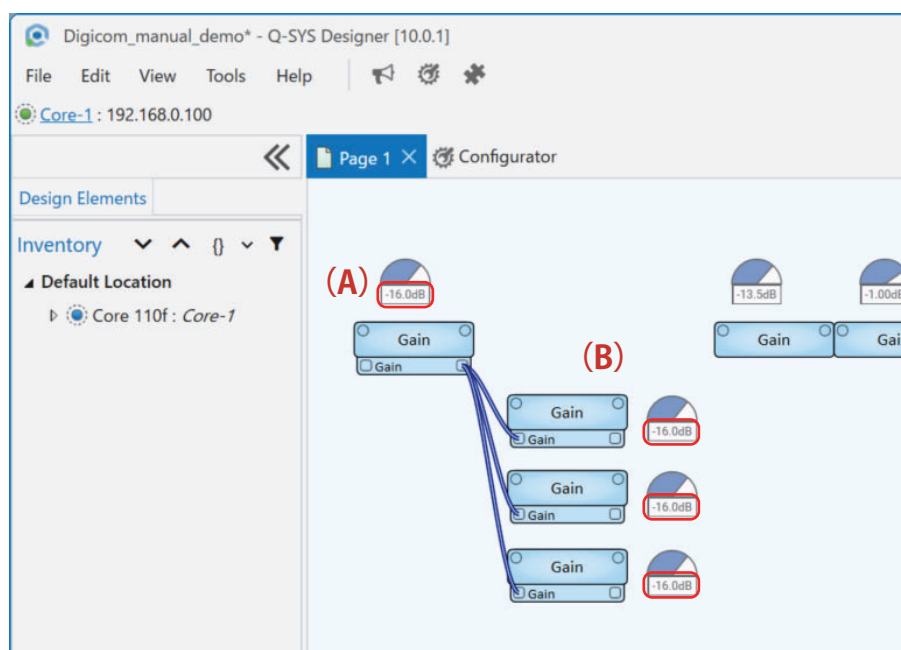
②「Gain」(A) のOutput (右側の○) から、コントロールしたい複数の「Gain」(B) のInput (左側の○) へドラッグアンドドロップで接続します。



③「Gain」(A) にLF16Qのch1をアサインします。

例) Named Controlsで「digicom\_fader101」をアサインすると、LF16Qのch1で、3つの「Gain」(B) を操作できます。

アサインが完了したら、「File」-「Save to Core & Run」を選択して、作成したDesignerデータを Q-SYS Coreと同期します。同期が完了すると、1つのフェーダーで複数のGainが動作するようになります。



## 1台のQ-SYS Coreに対して、複数台のLF-Qを使用する場合

1台のQ-SYS Coreに対して、複数台のLF-Qを使用する場合、DIPスイッチとIPアドレスの設定が必要となります。  
DIPスイッチの設定により、コントロールするパラメーターのNamed Controlsが異なります。詳しくは下記表でご確認ください。

### ■DIPスイッチ1~5番 Named Controlsの設定

1 2 3 4 5 6	LF08	LF16	LF24
	101~108	101~116	101~124
	109~116	117~132	125~148
	117~124	133~148	149~172
	125~132	149~164	173~196
	133~140	165~180	197~220
	141~148	181~196	221~244



### ■DIPスイッチ6番 レベル最大/最小値の設定

DIPスイッチ6番で、フェーダーの出力レベルを変更します。

OFFの時 : 大音量環境 (最大音圧90dB SPL以上) 時に推奨します。

出力レベルが -100dB から +20dB になります。

ONの時 : 小音量環境 (最大音圧90dB SPL未満) 時に推奨します。

フェーダーのカーブがかわりつつ、出力レベルは -100dB から +6dB になります。

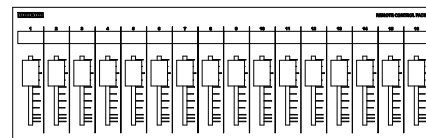
### ■複数台のLF-Qを接続する場合の設定方法

例) LF16Qを 2 台同時に接続する

① 1 台目のLF16QのDIPスイッチを全てOFFに設定する。



LF16Qのch1で操作するNamed Controlsはdigicom\_fader101  
LF16Qのch2で操作するNamed Controlsはdigicom\_fader102  
以下同様に116までとなります。



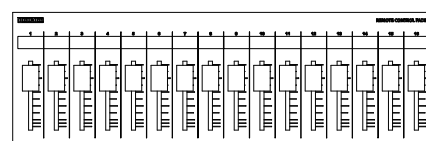
①Named Controlsが101~116に設定される

② 2 台目のLF16QのDIPスイッチを1のみONに設定し、IPアドレスを変更する。

フェーダーのIPアドレスを変更する方法については、同封の「フェーダーのIP設定方法」をご確認ください。



LF16Qのch1で操作するNamed Controlsはdigicom\_fader117  
LF16Qのch2で操作するNamed Controlsはdigicom\_fader118  
以下同様に132までとなります。



②Named Controlsが117~132に設定される

※注意 誤動作の原因になりますので、以下の点にお気を付けください。

複数台のフェーダー間で、Named Controlsが重複しないようにDIPスイッチを設定してください。

#### 組み合わせ使用できないDIPスイッチの例

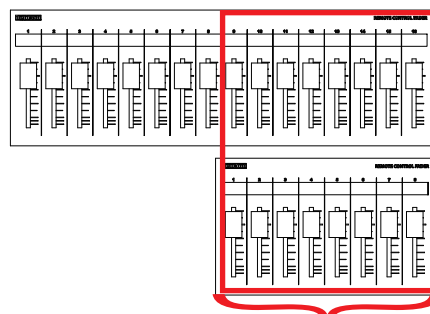
1 台目のLF16QのDIPスイッチを全てOFFに設定する。

⇒Named Controls101~116を操作

2 台目のLF08QのDIPスイッチを 1のみONに設定する。

⇒Named Controls109~116を操作

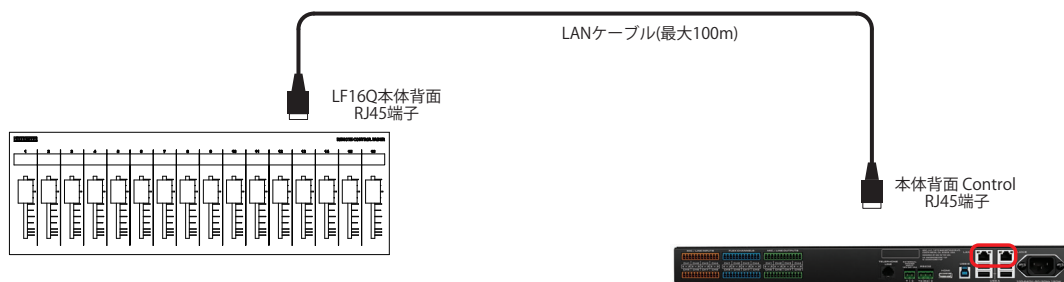
操作するNamed Controlsが重複してしまうので使用できません。



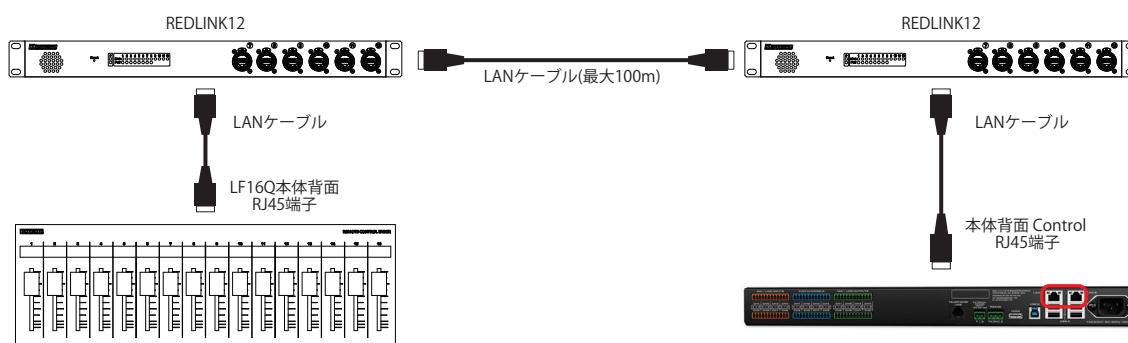
Named Controls109~116が重複する

## 接続方法

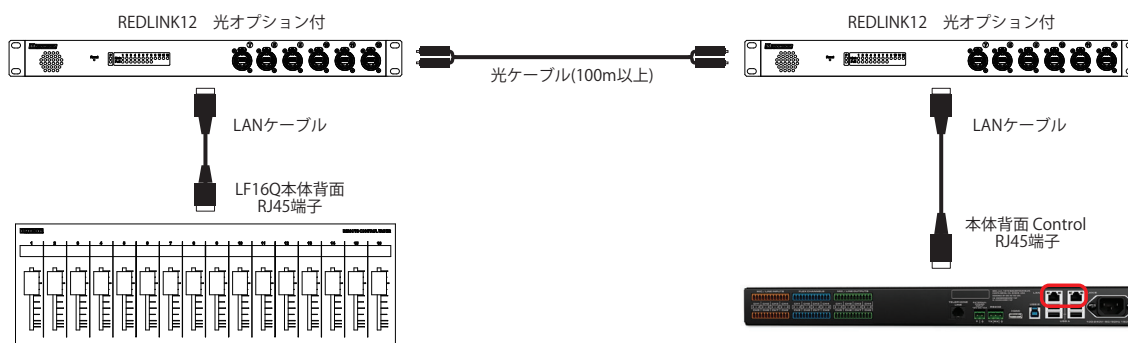
### ■基本接続



### ■スイッチングハブを使用した基本接続① (LANケーブル)



### ■スイッチングハブを使用した基本接続② (光ケーブル)



#### ■商品に関する注意事項

持ち運ぶ際、移動時に強い衝撃を与えないで下さい。  
水のかかる場所や直射日光が当たる場所での長時間の使用は避けて下さい。  
海浜部、温泉地帯など金属のさびやすい場所では本体や取付金具の耐久性が低下する場合がありますのでご注意下さい。  
ラックマウントして扱う場合、正しく設置しないと落下する恐れがあります。  
機材を引き出した状態で上下から負荷をかけますと事故や怪我の原因となります。  
D-RACK1など引き出し付きの機器を収納する際、指を挟まないように注意して下さい。  
万が一異音や異常、熱をおびた場合はすぐに使用を中止し電源を切り、メーカーまでご連絡下さい。

#### ■保証に関して

本機にはシリアル番号で製造、出荷年月日が管理されておりますので、保証書は添付されておりません。  
万が一、故障した場合は製造日より1年間は無償で修理いたします。

※使用方法の誤りにおける破損・故障に関しましては有償となります。また、不適切な使用や改造による故障や怪我は補償いたしかねますのでご了承下さい。

#### ■損害に対する責任

この商品の使用、または使用不能によりお客様に生じた損害については、当社は一切その責任を負わないものとします。  
またいかなる場合でも当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになった商品の代価相当額をもってその上限とします。

#### お問い合わせ

### 有限会社Digicom

〒454-0012 愛知県名古屋市中川区尾頭橋3-11-15

TEL:052-324-8385 FAX:052-324-8386

E-Mail:info@e-digicom.co.jp

<http://e-digicom.co.jp/>